

内浜校区青少協 講演会

『不登校ってなあに』

不登校の何が問題なのか ～その背景と周囲の対応～

福岡市立 内浜公民館 講堂

令和 2年2月14日（金） 19時

令和2年2月14日（金）19時00分から福岡市立 内浜公民館の講堂 において内浜校区青少協主催の講演会が行われました。参加者51名で、自治会・PTA・教育関係・行政関係など幅広く参加されていました。今回は私、ぼちぼちの会会長木村が講師として『『不登校ってなあに』 不登校の何が問題なのか ～その背景と周囲の対応～』をテーマに講演をさせていただきました。



「不登校問題」は学校だけでなく地域でも大きな問題としてとらえられていますが、地域の方から見ればその実態がよくわかりづらいのが正直なところ。いまだに学校にいかないのは育て方や個人的な問題だと思われていたり、多くの誤解が広がっています。不登校がいけないことだという偏見で苦しんでいる子どもたちが多くいることはなかなか理解されていません。また、理解しようとしても正しい情報が入ってこないことや自分がどうしたらいいのかが解りづらいことも多いようです。不登校は個人の問題や学校・教育問題だけでなく社会問題として取らえることも必要です。今回、講演後の感想などにも初めて理解できたという言葉を多くいただきました。「不登校の何が問題か?」「不登校は問題行動ではない。「何が・誰が不登校を難しいものになっているのか（本人の問題?）」「不登校は特別な子どもの行動ではない」について理解を深めました。子どもは家庭・学校・地域社会の3つの生活圏を持っています。それぞれの活動の場で認めれうことが必要です。

学校の中に居場所がなくなれば不登校になります。家の中で認められなければ外に出るか部屋に引きこもるか。そして地域機で認められなければ対人恐怖も含めて居場所がなくなります。一つでもまずは子どもを認めてあげることのできる場にしていくことが大切です。そのためにも地域社会は子どもの成長にとって重要な役割を持っています。

内浜校区青少協 講演会

テーマ

『不登校ってなあに』

「不登校ってなあに」

そんな疑問をお持ちの方も少なからずいらっしゃると思います。今回は教員時代や退任後も長年「不登校」に向き合われ、内浜公民館に「ひだまりの会」のアドバイザーとして、毎月足を運んでくださっている木村氏を講師にお招きし、講演会を開催いたします。

■ 日時：令和2年2月14日（金）
19時開場 19時20分開演

■ 場所：内浜公民館 講堂

■ 講師：ぼちぼちの会

会長 **木村 素也 氏**

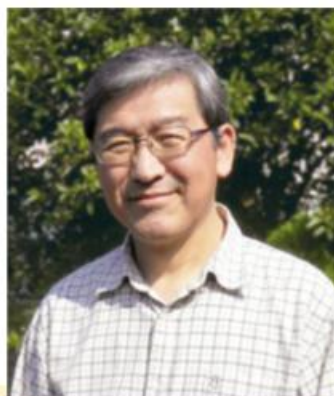
■ 講師プロフィール

1953年4月福岡県福岡市生まれ。

2014年3月に福岡市立能古中学校校長を退任するまで38年間にわたって福岡市の公立中学校教員を務める。福岡市立中学校の教員として、学校に行けない生徒の進路や生活面の支援及び保護者の情報交流の場作りを目指して活動。

2000年から始めた『不登校生の保護者会』による不登校支援の活動は福岡で根付いている。現在、「ぼちぼちの会」会長として各保護者の会と連携しながら不登校生の支援に関わっている。

趣味は園芸やイラストなど。



主催：内浜校区青少年育成協議会

共催：ひだまりの会

後援：内浜校区自治協議会・内浜公民館